

雑 感

片 岡 清 臣 (数学教室)

当数学教室に本年4月に着任して以来、早半年が過ぎようとしていますがかつて学生時代、及び助手として勤めていた頃と何か違う雰囲気を感じています。これは自分が年を取ったせいもありますが、かつて(といっても十数年前の事になりますが)教えを頂いた先生方が次々と去り、或いはここ数年のうち停年退職されるそうで、古巣がなくなるようなとても寂しい気がします。自分の年のせいだけではなく、数学教室拡張時代の人事の問題にもなるのでしょうか、やがて教授の先生方の顔ぶれもかなり若返るようです。私自身も前勤務先の都立大学では一番若い方の助教授だったのですが、ここでは年寄りの方に入ってしまうようです。

その他にも都立大学当時と比べて色々な点が目に付きますが、何か大企業と中小企業の違いというかそんなものを感じます。数学教室のメンバーの数自体はむしろ都立大の方が多いのですが、何といっても事務の方のバックアップが強いようです。昔からの伝統の違い等、色々な理由があると

思いますが私にはサービス過剰で歯がゆいような甘さを感じます。これは研究の方でもそうでした私の専門である佐藤超関数論とか超局所解析とかは一般になじみが薄く、フランスの一部の人と当教室の代数解析セミナーの出身者以外にはほとんど理解されていない分野ですので、彼らのいない他大学で話をする時は大変です。如何に専門用語を使わず成果を効果的に伝えるかという事についても気を配らねばなりません。都立大学では、従ってその訓練をいつもやらされていたわけで、他の解析系の分野、例えば非線形微分方程式とか微分幾何の人達と(お互いけなし合いながらも)議論する事が多かったようです。しかしここでは専門を同じにする同僚や大学院生がたくさんいてまことに住み良いのですが、逆に以前のような外部の人に対する緊張感がなくなってしまったような感じでした。どちらが良いともいえないでしょうが、専門に埋まりがちな環境にあるのだという事を常に自覚してやって行きたいと思います。